

高尚な皮肉

ライブラリ

合気と水の流れ

師範代「今日の稽古は以上ですが、見学の感想があれば聞かせて下さい」

見学者「ありますが、何も分からない内から見解を述べるのは失礼と存じますので、感想は控えます」

師範代「あるんですね。どんな事を思いましたか」

見学者「…。私は合気と流れ水を混同していました」

師範代「合気と流れ水!! お話し下さい」

見学者「川を板で塞ぐと、堰き止めた板のすぐ脇を流れる水もあれば、板から離れて遠くを流れる水もあり、いずれも、水は現在場所から最短距離を辿って目的場所へ流れて行きます。

合気は相手へ返しますので、目的場所がある点は水と同じですが、気が進む方向は、水が流れる『下』という自然な場所ではありません。

相手から放たれた気を相手へ返そうとするのは、低所の水を高所へ上げる不自然さと同じせいか、素振りが大きくなり、動きにムダが生じます。流れる水に不自然さはありません。

相手と気を合わせる『調和』が極意なら、精神修養をすればよく、体術は不要です。制圧が目的なら、やり方は他にいくらでもあります。

気の返し方が自然でも、相手へ返す不自然さがあり、合気は根底が不自然です」

心理回答者の思考法

「外部の変化は、自分の行為の作用である。二つは関係性がある」と思い込んでしまう心の動きを、心理学の理論を使って関係性の無いことが説明されても、数ある心理学理論の中から関係性のある理論を選んで説明しています。

回答者は相談者の思考を否定しておきながら、相談者と同じ思考をしておりますので、相談者は相談相手を間違えていることが分かります。

合気と因果応報

師範代「今日の稽古は以上ですが、見学の感想があれば聞かせて下さい」

見学者「ありますが、何も分からない内から見解を述べるのは失礼と存じますので、感想は控えます」

師範代「あるんですね。どんな事を思いましたか」

見学者「…。私は合気と因果応報を混同していました」

師範代「合気と因果応報!! お話し下さい」

見学者「因果応報は、自分がしたことは自分へ返って来る法則で、報復を正当化する手段ではありません。

相手の気を相手へ返せば、自身の行為を相手は身をもって知ることになりますが、返す行為は因果となり、返した本人へ返って来ます。

また、相手のしたことが自分を通して、相手へ返るのではありません。過去に自分のしたことが相手を通して、自分へ返って来たのです。

因果応報は法則ですが、戒めなら、やられたらやり返す繰り返しの輪から外れなければなりません。報復の連鎖を断ち切るには相手を受け入れません。返しません。

返せば返って来るので、終わりが無く不合理です。調和して応報するのも不合理です。調和が無ければただの体術です。合気は整合性がとれてません」

心理学の需要と役立ち

心理学を学ぶ人が増えていますが、心理学で心の悩みが解決するなら、心を病む人は減少していき、心理学の需要も減少していきます。

心理学の需要の増加は、心を病む人が増加しているからです。

心理学人口が増える理由は、少なくとも心理学単体では、人の役に立たないからに他なりません。

心理回答者の思考法【字と文章版】

字は字としての意味はありますが、字単体は文章としての意味はありません。

多様で無意味な字の一つ一つが「周囲の変化は、自分の行為の作用に違いない」という順序で並んでいたため、「二つに関係は無い。思い込みである」と否定の返答をするなら、回答者は「無意味な字の集まり」を、「集まった字には意味がある」と思い込んだ上での回答となり、字の集まりを「文章」と決め付けています。

「無意味な字の集まりには関係があり、文章としての意味を持っている」「立場が逆の関係ではない」「他の回答者と相談者の関係ではない」を回答者は証明しなければ、回答者は、自分で否定した思考法をしておりますので、回答者としての存在意義がないことがわかります。

最終更新日 2026-08-14

[まこと](#)